

宇宙戦艦ヤマト

バンダイ 1/700スケールプラスチックキット

製作・文 政府開発援助

1.宇宙戦艦ヤマトについて

22世紀、地球は謎の敵ガミラスの攻撃を受けていた。遊星爆弾により地表は壊滅、人類は地下都市を築いて徹底抗戦を続けたが彼我の戦力差は歴然としていた。そして遊星爆弾の放射能汚染は徐々に地下にまで到達し、全人類の滅亡まであと1年というところまで追い込まれた。時に西暦2199年。14万8千光年彼方の星イスカンダルより救いのメッセージが届いた。イスカンダルまで来るなら放射能除去装置を渡す用意があるといひ、ワープ航法を可能とする波動エンジンの設計図も添えられていた。地球防衛軍は地球脱出船として密かに改修されていた旧日本海軍の戦艦大和に波動エンジンを搭載してイスカンダルに向かうことに一縷の望みを託し、ここに宇宙戦艦ヤマトが誕生した。敵の待ち受ける前人未到の大宇宙を単艦で突破して往復29万6千光年の航海を1年以内に完遂しなければならないヤマトには強力な武装に加えて多数の艦載機が搭載されており、また艦内には戦闘艦には珍しい工場や食糧プラント等も備わっている。

2.キットについて

1/700ヤマトが発売されたのは1978年のことで、当初は内部構造を再現したメカニックモデルとして発売されました。後に内部メカを省略したキットも併売されるようになり、今回はこちらを製作しています。バンダイのヤマトのキットは大は1/500から小はメカコレクション(実測1/2000)まで4種類、それと劇中のパースの付いた状態を再現したイメージモデルが発売されていましたが、イメージモデルを除けばその設計もパーツ割もほとんど同様となっています。



前面

3.製作と塗装について

20年以上昔の(誤った)解釈で作られている部分を可能な限りアニメ設定や劇中の雰囲気に近いことを目標としました。またプラモデルとしての精度が現在の水準から見ると(古いキットなので当然)今一步で、その部分の修正にも相当の労力を割いています。工作にあたっては基本に戻り、プラ板・プラ材を多用してプラ用接着剤でしっかりと接着することを心掛けました。飾り台は1/1000ヤマトの部品を流用し、艦体に穴が無くても設置できるようにしています。

塗装は艦底部がシャインレッド、艦体はガンダムカラーのエクストラダークグレーで、いずれもクレオスの缶スプレーを使用。今回は2201年(対ガトランティス)仕様なので艦橋の窓は緑色(黄色の上にクリアブルー)としています。各部の窓やセンサー類も同様にエナメル系のクリアカラーを塗り重ねています。



後面

4. 製作過程



艦首波除板は薄く整形、波動砲周辺は裏打ちして削り込んだ。



メインノズルを大型化して艦尾をボリュームアップ、後部甲板を新造。



艦橋鐘楼は資料を元に大幅に形状変更。主砲上面のモールドも削り落として新造。



工作をほぼ終了し、サーフェーサーを吹いた状態。飾り台は1/1000ヤマトの部品と組み合わせている。

5. キットのストレート組(上段)との比較

